

サトイモの収穫と 上手な貯蔵の仕方

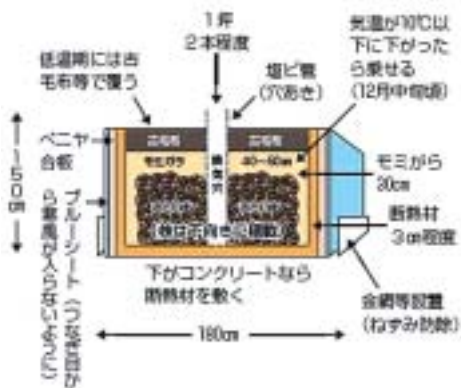


秋に入って盛んに育ち肥大したサトイモは、晩秋に入ると育ちが止まり収穫期に入ります。

収穫の時期は、葉の緑が黄化し始め、葉が少し垂れたころです。

サトイモは寒さに弱く、1〜2回霜を受けただけで葉は容易に枯れてしまいますが、このころが収穫期の限界です。掘り遅れると品質を損ねるだけでなく、貯蔵した場合の故障芋が多くなってしまいます。

収穫に先立って、図のよう



図ぐらいの高さで、かまでも刈り取っておくと作業がしやすくなります。芋や根は強大に張っているの、株の側方に大きくくわを打ち込んで、子芋や孫芋を外さないよう注意して株全体を丁寧に掘り上げます。

すぐ利用する場合は、その場ですべての子芋、孫芋、ひ孫芋を親芋から取り外します。多数の株を効率良く取り外すには、外側の外れやすい子芋を取り除き、側方から大きなビール瓶など（肉厚で壊れにくいもの）で強く打つと案外傷つかずによく外れ落ちてくれます。

貯蔵する場合には、子芋、孫芋などを外さないように、特に注意して取り扱います。外れてしまうとその傷口から傷み始めるので、故障株が多くなってしまいます。

板木技術士事務所
●板木利隆

小千谷里芋栽培組合 おすすめ貯蔵の流れ

①貯蔵場所を作成する。もみからを厚さ30cm程度に敷き詰め、寒風が入らないように仕切られる空間をつくる。寒風が入ると腐敗しやすいので、出入りが激しい

所に保管しないか、仕切る。②芋は株のまま、逆さまにし積み重ねていく。③芋（株）を積み重ねる際に、株と株の間にもみからを詰める。もみからを詰めること、△しる原因になるので注意する。貯蔵量（芋）が少ないと、芋の熱量が少ないため貯蔵がしにくくなるので注意する。④通気性が良いように、換気穴となる塩ビ管（穴あきが良い）を1坪2本程度設置する。芋の△しや酸欠による腐敗を防ぐため、通気性の良い塩ビ管を設置する。